

第3回小郡市幼児施設審議会議事録

日 時	令和7年3月28日（金）14：00～15：41
場 所	小郡市総合保健福祉センターあすてらす 2階 会議室
出席者	<委員> 会長：脇田委員、副会長：和田委員 委員：大淵委員、酒村委員、梶原委員、秋本委員、中川委員、林委員、山下委員（欠）、組坂委員（欠） <事務局職員> 今井子ども・健康部長、成富保育所・幼稚園課長、鹿毛保育支援係長、砂田御原保育所主任 神代こども家庭支援課長、山口こども家庭支援課長補佐、鹿子島こども家庭支援係企画主査 <傍聴者>2名
資 料	第3回小郡市幼児施設審議会会議次第 資料 第4章教育・保育、地域子育て支援事業の量の見込と確保方策 幼稚園 園児数推移
会議内容	
1	開会あいさつ
2	審議 （1）公立幼稚園のあり方について 事務局より説明 《委員》幼稚園在園児の母親も就労し、保育所を希望する人が増えてきている。幼稚園が土曜保育や延長保育などを拡充すれば、園児確保できると思うが、職員の働き方改革などを考慮すると実施がなかなか難しい状況だ。現在の社会ニーズは幼稚園よりも保育園だと思う。 《委員》公立幼稚園保護者から給食実施希望があるとお話があったが、幼稚園に通わせている保護者も共働きが増えている現状があり、保護者負担軽減の観点からも給食実施はいいことだと思う。 《委員》給食実施や夕方5時まで園児を預かってほしいなどの社会ニーズを考慮すると、幼稚園よりも保育所の方が、ニーズに合っているのではないかと考える。また少子化や生産労働人口が減少している現代で3時や4時に仕事が終わる状況は減っていくのではないかと考える。よって、現状幼稚園が保育所に代わるというのが結論になるのではないかと考える。 《委員》某幼稚園では、保護者との連絡体制を密にするなど、園児確保に向けて取り組んでいる。しかし、入園を迷っている保護者からは、「朝30分早く登園出来たら」や「土曜日空いて

いたら」などの声があがるので、保育ニーズが高いと感じる。

《委員》今小郡市内の保育所には多数の発達課題を抱える児童が通園し、外国籍の児童も多数通園している。人員の関係で保育所が受け入れきれない場合に、公立保育所・公立幼稚園が対応している現状がある。

《委員》共働きが増えている現状で9時半から3時までの通園だとすると、就労の隔たりとなるのではないかな。

《委員》発達に課題のある児童が、加配保育士確保の関係で入所できないケースがある。配慮の必要性など対応が難しい場合があるが、公立幼稚園では受け入れているケースがよくある。おそらく他園と比べて高い比率で受け入れている。

また、保育ニーズが高まっているという話があったが、給食のことや預かり時間を増やしたいというニーズがあるので、認定こども園への移行ということがいいのではないかな。1号から3号までの幅広いニーズに対応していこうと考えるのであれば認定こども園への移行は避けられないのではないかな。

（2）公立保育所のあり方について

事務局より説明

《委員》公立保育所では、待機児童解消のため利用定員を引き上げ、頑張って受け皿として対応している現状がある。建物も古く厳しい環境や保育士不足も相まって過重労働で保育士が離職するという悪循環があるのではないかな。市内全域でいうと、受け皿確保のため公立・私立とも定員以上の受け入れをしているが、まずは定数内保育を目指すことが大事ではないかな。

《委員》公立保育所だからこそできることや担えることを明確にして、公立保育所のあり方の方向性を定めた方がいいのではないかな。待機児童解消のために公立・私立ともに受け皿確保に取り組んでいるが、今後少子化が進んで利用者が減少したときに、まず公立の役目が終わり閉園という考えでいいのだろうか。それとも、公立保育所の役目を明確にし、持続的に運営していくようにできないのか。公立保育所では、民間とは異なる役割があると思うし、民間と共同で行うということも意義があるのではないかな。保育士不足や保育士の働き方についても課題がある中で、公立で先進的に改善策などが見いだせれば、私立保育所でも追隨して導入できることもある。

《委員》保育所の現状では保育士確保など厳しい現状があるが、今後のあり方を考えたときに、まず保護者のライフスタイルに応じること、そしてこどもたちそれぞれの状況やニーズに合わせて方向性を決めていく必要がある。

《委員》公立保育所の審議は次回まで引き続き行う予定であるが、公立保育所で率先して取り組んできたものを、次回事務局から情報提供していただきたい。

《委員》公立保育所の保育士確保の課題は、やりがいと処遇ではないかな。保育士業界全体が仕

事がきついのか、小郡の公立保育所が特別きついのか、アンケート等で資料を提供していただきたい。

3 その他

《事務局》

今回の会議日程等を事務局より説明。

4 閉会のあいさつ

公立幼稚園は県内でも数少ない状況である。保護者のニーズを考えると教育内容よりも通園距離など物理的なメリットを優先しているのではないかと考える。

また保育士確保対策については、学校でも教員不足など同じ課題があり、市内在住の潜在保育士を見つけ出すことが、対策の一つではないかと考える。

次回も引き続きご審議のほどお願いする。